

中期目標の達成状況報告書
(第3期中期目標期間終了時)

2022年6月

鹿屋体育大学

目 次

I. 法人の特徴	1
II. 4年目終了時評価結果からの顕著な変化	3
3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した 教育・研究に関する目標	3
4 グローバル化に関する目標	6

※本報告書は、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化を記載したものである。

I. 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

～スポーツで未来を拓く自分を創る～

国立大学法人鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育系大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要な不可欠なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、体育・スポーツ学分野における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与する。

1. 教育に関する目標

学部：スポーツ・健康・武道分野における研究成果に基づいた教育を通じて、国民のスポーツ、健康及び武道を適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有し、広くは国際社会で活躍できる有為な人材を養成する。

大学院：国民のニーズに応じた適切なスポーツ・身体運動の指導やマネジメント及びプログラム開発、トップアスリートに対する科学的なトレーニングの指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として、国内及び国際社会で活躍できる中核的な役割を担う人材を養成する。

2. 研究に関する目標

スポーツ・健康・武道分野におけるこれまでの研究実績を生かし、新たな研究領域としてグローバルなスポーツイノベーション研究拠点の構築を目指す。

また、スポーツ活動や指導の実践知に関する「スポーツパフォーマンス研究」との取り組みとも連携し、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック大会での活躍を目指す本学学生をはじめ、国内のトップアスリートの競技力向上につながる科学的サポートを実施する。

さらに、本学の基礎的・応用的・実践的領域での研究を組織的・学際的・総合的に推進する支援体制の整備・充実に取り組む。

3. 社会貢献に関する目標

教育研究の成果を積極的に広く情報発信するとともに、開かれた大学として生涯学習の機会を提供し、教育研究資源の開放を行うとともに、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ・武道文化の振興・発展に貢献する。

4. グローバル化に関する目標

オリンピック・パラリンピック教育や日本のスポーツ・武道文化教育及びスポーツ実践やスポーツ医科学研究を通じて、アジア地域をはじめ海外の若手研究者やコーチと本学学生・教員との積極的な交流を推進するための、グローバルな教育研究拠点を形成する。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- スポーツを適切に指導し得る専門的知識、実践力・実技力や指導力を有した人材育成を継続的に安定して行うために、今まで評価方法が確立されていなかった実践的なスポーツ指導力やマネジメント力などのスポーツ指導者として求められる基礎的な能力を測定するプロフィール型テスト「スポーツ指導者基礎力テスト (SCCOT)」を開発し、本学学生や他大学で体育学を専攻する学生に対して実施している。
(関連する中期計画 1-1-1-3)
- スポーツ科学に特化した本学の研究施設・設備とこれまでに蓄積した研究データを活かし、「Top Athlete Support System(TASS)プロジェクト」や「Promotion of Active Life Style(PALS)プロジェクト」等の本学独自の研究プロジェクトを推進するとともに、それらの研究成果を社会に還元している。
(関連する中期計画 2-1-1-2、2-1-1-3、3-1-3-1)
- 学部生の92%が体育系課外活動団体に所属し体育系課外活動が活発でスポーツ資源(人材、施設等)が豊富であるという本学の特性を活かし、大学スポーツを地域活性化につなげる文化モデルの確立を目指して2017年度に日本版NCAA「KANNOYAモデル」事業(2019年度からはBlue Winds事業)を始動し、地域密着スポーツブランドの創設やスポーツを「する」「みる」「ささえる」イベントの開催などに取り組んでいる。
(関連する中期計画 3-1-1-1)
- 本学の特徴であるアジアにおけるネットワークを活かし、国際スポーツ・アカデミー形成支援事業として、アジア各国・地域の若手研究者や指導者に対し、グローバルに活躍できる人材の育成を行っている。また、オリンピック・パラリンピアンを招聘した特別講演会や公開講座などの東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成イベントを開催している。さらにこれらの事業に学生を従事させることにより、広い視野や国際感覚を育てている。
(関連する中期計画 4-1-1-2、4-1-1-3)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- グローバルなスポーツ研究イノベーション拠点の形成を目指して、スポーツパフォーマンス研究センターを活用し、スポーツ医科学・情報工学分野と連携・融合したさまざまな研究プロジェクトを実施する。
(関連する中期計画 2-1-1-1)
- 総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツの多様なプラットフォームにおいて、健康の維持増進を目指した様々なスポーツ活動等に関する支援を行う。
また、地域における健康の維持増進、生活習慣病予防等に関する研究をPromotion of Active Life Style (PALS)プロジェクト等により実施するとともに、地方自治体等と連携して普及に努めてきた貯筋運動を国内だけでなく、海外で実施するグローバル貯筋研究プロジェクトとして推進する。
(関連する中期計画 2-1-1-3)
- 大学のグローバル化に向けた教育研究を発展的に取り組むため、文部科学省補助事業である国際スポーツ・アカデミー形成支援事業などを活用し、主にアジアの若手指導者や研究者を育成するとともに、教職員及び学生のグローバル化に繋がる環境を整備する。
(関連する中期計画 4-1-1-2)

Ⅱ. 4年目終了時評価結果からの顕著な変化

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究 に関する目標

(1) 3-1

4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化があったと判断する取組は、以下のとおりである。

小項目 3-1-1	地域への多様な学習機会の提供等により、生涯学習の普及や地域の活性化に貢献する。
--------------	---

《特記事項》

○優れた点

①	特になし。
---	-------

○特色ある点

①	地元の放送局と連携して、音楽に合わせた3つの難易度の運動プログラムの動画コンテンツを令和2年度に開発し、『Exseed (エクシード)』プロジェクトとして、動画サイトや放送局のスマートフォン用アプリで配信するなど普及を行った結果、令和3年度には開発した運動プログラムが地元市内の小学校や鹿児島市のスポーツイベントにおいて取り入れられるなど地域の活性化に貢献した。(中期計画3-1-1-1)
---	--

○達成できなかった点

①	令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初に15講座以上計画していた多くの公開講座等が中止や延期を余儀なくされ、開設した公開講座等の数は、令和2年度は7講座、令和3年度は14講座に留まった(中期計画に掲げた目標値は年15講座)。(中期計画3-1-1-1)
---	---

《中期計画》

中期計画 3-1-1-1	★	大学の教育研究資源を活用し、地域の課題・ニーズに対応した公開講座等を年間15講座開設するなど、大学開放事業に発展的に取り組む。		
中期目標期間終了時 自己判定	【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている	4年目終了時 判定結果	【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

○2020、2021年度における実績

実施予定	実施状況
(A) 引き続き、大学の教育研究資源を活用し、地域のニーズに即した公開講座を毎年度15講座以上開設するとともに、高校生のための最先端スポーツ科学体験合宿プログラム「スポーツサイエンスキャンプ」を開催する予定である。	令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初に15講座以上計画していた公開講座等の多くが中止や延期を余儀なくされた。国や県の要請に従い、一部の公開講座等については感染対策を実施した上で開設できたものの、令和2年度の開設数は7講座、令和3年度は14講座に留まった。また、スポーツサイエンスキャンプについても、令和2年度と令和3年度は中止とした。 一方で、令和元年度までの4年間の公開講座等の開設数は、目標値を大きく上回る水準で推移し、令和2・3年度を含めた第3期中期目標期間の平均は16.5講座/年度となり年度平均では目標を達成した。(別添資料3-1-1-1-a)
(B) 引き続き、全国高等学校選抜剣道錬成大会「鹿屋杯」の開催や「鹿屋カップヨットレース大会」、「マリンフェスタinかのや」、「マリンフェスタinかのや」への協力等を行う予定である。	新型コロナウイルス感染症の影響で、剣道「鹿屋杯」及び「鹿屋カップヨットレース大会」は令和2年度・令和3年度ともに中止、「マリンフェスタinかのや」は令和3年度のみ開催した。
(C) 引き続き、「Blue Winds事業」を実施する予定である。	大学スポーツを通じて鹿屋市をはじめとする地域との交流の輪を広げ、地域の活性化を目指すBlue Winds事業として、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、イベントの継続が困難となったものの、イベントのオンライン化や対面での感染対策について試行を重ね、令和3年度に各イベントを新たな生活様式に適応したイベントへとリニューアルした。また、令和元年度から生涯スポーツ実践センターが実施している市民参加型ランニングイベント「みんなのタイムトライアル」を、令和3年度からはBlue Winds事業として開催し、93名が参加した。これらの取組が評価され『UNIVAS AWARDS 2021-22』の大学スポーツ振興に関する先進的取り組み事例を表彰する「スポーツ統括部局/SA賞」部門に

	<p>において、優秀賞を受賞した。(別添資料3-1-1-1-b)</p>
<p>該当なし</p>	<p>子どもの体力低下という社会課題の解決のため、本学では平成22年度より研究協力校とともに短時間で実践可能な運動プログラムの研究開発に取り組んできた。令和2年度には、地元の放送局と連携して、音楽に合わせた3つの難易度の運動プログラムとして学校現場で取り入れやすい時間の5分間の動画コンテンツを開発し、『Exseed (エクシード)』(※)プロジェクトとして、動画サイトや放送局のスマートフォン用アプリで配信するなど普及を行った。その結果、令和3年度には地元市内の小学校や鹿児島市のスポーツイベントにおいて本運動プログラムが取り入れられるとともに、各動画コンテンツの視聴回数の合計が令和2年11月の公開から約1年半で1万5,000回を超えるなど普及の効果が出ている。(別添資料3-1-1-1-c)</p> <p>※ 運動を表す『Exercise(エクササイズ)』と種を意味する『Seed(シード)』を組み合わせた言葉</p>

4 グローバル化に関する目標

(4) 4-1

4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化があったと判断する取組は、以下のとおりである。

小項目 4-1-1	国際交流や連携事業を通して大学のグローバル化を推進し、グローバルに活躍できる人材の養成を行う。
--------------	---

《特記事項》

○優れた点

①	第3期中期目標期間に新たに2大学と国際交流協定を締結し、中期計画に掲げた平成27年度末比10%拡充という目標を大きく上回る、25%拡充を達成した（平成27年度末時点の国際交流協定校は8大学）。
---	--

○特色ある点

①	特になし。
---	-------

○達成できなかった点

①	令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人研究者及び留学生の受入れが相次いで中止または延期となり、外国人研究者及び留学生の受入れ人数は、令和2年度9名、令和3年度0名であった（中期計画に掲げた目標値は最終年度までに平成27年度比20%拡充の14.4人）。（中期計画4-1-1-1）
---	---

《中期計画》

中期計画 4-1-1-1	-	国際交流協定の締結校数を10%拡充するとともに、外国人研究者及び留学生の受入れを20%拡充する。		
中期目標期間終了時 自己判定	【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている	4年目終了時 判定結果	【3】中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

○2020、2021年度における実績

実施予定	実施状況
(A) 引き続き、新たな国際交流協定の締結及び短期研修に関する協定書・覚書の締結に向け、検討予定である。	平成29年9月に中国の天津体育学院と新たに国際交流協定を締結し、締結校は8校から9校となり、4年目終了時まで中期計画に掲げる目標（平成27年度末比10%拡充）は達成していたが、さらに令和2年7月に台湾の国立台湾体育運動大学との間で国際交流協定を新たに締結し、中期計画に掲げる国際交流協定の締結校数10%拡充の目標を大きく上回る25%拡充（平成27年度末比）となった。（別添資料4-1-1-1-a）
(B) 引き続き、国際交流協定の締結校及び短期研修に関する協定書・覚書の締結校に本学学生の派遣を行うとともに、外国人研究者及び留学生の受入れを推進予定である。	新型コロナウイルス感染症の影響で、海外での研修等を希望する学生がおらず、派遣を行っていない。また、外国人研究者と留学生の受入れ数についても、令和2年度9名、令和3年度0名であり、中期計画で掲げる最終年度までに平成27年度比20%拡充の14.4人を達成できなかった。 一方で、令和元年度までの4年間の外国人研究者と留学生の受入数は、目標値を大きく上回る水準で推移し、令和2・3年度を含めた第3期中期目標期間の平均は15.5人/年度となり目標を達成した。（別添資料4-1-1-1-b）

定量的な指標を含む中期計画の達成状況一覧（鹿屋体育大学）

中期計画番号	定量的な指標	目標値	達成状況（実績値）						戦略性・ 意欲的
			H28	H29	H30	R1	R2	R3	
1-1-2-1	能動的学習（アクティブ・ラーニング）等を取り入れた授業科目を平成31年度までに全体の100%にする	100%	88%	81%	100%	100%	100%	100%	-
1-1-4-1	学生の学修の振り返り・改善のポートフォリオシートの提出率を全体の70%以上	70%以上	-	-	89%	83%	72%	78%	-
3-1-1-1	地域の課題・ニーズに対応した公開講座等を年間15講座開設	年15講座	16	20	21	21	7	14	-
4-1-1-1	国際交流協定の締結校数を10%拡充	10%拡充	0%	+13%	+13%	+13%	+25%	+25%	-
4-1-1-1	外国人研究者及び留学生の受入れを20%拡充	20%拡充	+17%	+75%	+75%	+133%	-25%	※0人	-